

現代社会は、情報があふれている。その情報は、まさに玉石混交である。いったいどれが正しい情報かを判断できる力が求められる。

最近で言えば、新型コロナウイルス感染症に関する情報である。あらゆる情報が氾濫する状況にあって、膨大な情報の中から受け取った情報が正確な情報であるかを見極める姿勢が個人個人に求められる。

では、私たちは、新型コロナについて正確な情報を見極めることなどできるのだろうか。昨年まではどうであったか。マスクは本当に必要なのか。ワクチンには本当に効果があるのか。飲食店やイベント会場の人数制限に意味はあるのか。確かなことは何一つ分からない状態が続いた。結局、他の人が言うからと付和雷同となる。

ウクライナ情勢についてもそうである。非人道的な行為は、あってはならない。だが、どちらの国の言い分に、どれだけの正当性があるかなど、正直なところわからない。皆が言うからそうなのかと思っているだけである。

情報と言うものは、操作も加工もできる。米国がイラクを攻撃した際の理由に挙げた大量破壊兵器は、実際には無かったとも言われている。もしかしたらアポロ11号は、月に到達していないかもしれない。私たちは、何が正しい情報かを判断できる材料を持ち合わせていない。誰が言っているかで何となく見当をつけるしかない。これは危ないこと、おそろしいことである。

国民性を表す有名なジョークがある。沈み始めた船から乗客を速やかに脱出させるために、海に飛び込むよう船長が指示するときの言い方である。

米国人には、「飛び込めば英雄ですよ」

英国人には、「飛び込めば紳士です」

ドイツ人には、「飛び込むのが規則です」

イタリア人には、「飛び込むと女性にもてますよ」

フランス人には、「飛び込まないでください」

そして、日本人には、「みんな飛び込んでいますよ」

私たちが、「みんなが言うから」「みんなやっているから」という呪縛から逃れられるだけの主体性をもてるようになるのは、まだまだ先であろう。これは、玉石すなわち宝石と石ころを見極めるよりもむずかしい。情報とは便利なものではあるが、厄介なものでもある。